

局面		システム開発 実行段階														
		システム開発 実行段階											システム運用 移行・導入段階		システム運用・保守 実行段階	
		システム 構想段階	システム運用 設計・計画段階 ←計画・設計段階										システム運用 移行・導入段階		システム運用・保守 実行段階	
ITプロセス目的		ビジネス&IT戦略	ITシステム化構想	ITシステム化計画	要件定義	外部設計	内部設計	製造	システムテスト	ユーザーテスト	試行	移行・導入	運用実行	運用評価	運用改善	
ITプロセス目的		・事業目標を達成するために、中長期のビジネス戦略およびそれを支援するIT戦略を立案する。	・ビジネス&IT戦略局面で構想した戦略上の優先順位を明確にし、それを実現する業務システムとITアーキテクチャの構築シナリオを立案する。	・ITシステム化構想に基づき、本番開発に向けてスコープ/スケジュール/費用/体制を明確にし、実現可能性の高いシステム化計画を立案する。	・ビジネスおよびシステム運用上の要件を明確化し、ユーザー側とシステム側で合意する。	・要件定義に基づき、どのようにシステムを構築していくか、外部仕様を定義して文書化する。また、システムの移行方針、システム運用の方式を確定する。	・外部仕様に基づき、プログラムの詳細仕様を確定する。	・内部設計に基づき、システム構成要素を実装し、システムテストが実行可能な品質レベルであることを保証する。	・システム全体を業務機能面とシステム運用面で動作検証し、ユーザーテストが実行可能な品質レベルであることを保証する。	・ユーザーが主体となって、システム全体が実環境下で要件通りに業務運営が遂行できることを検証する。	・本稼動後の業務運営を想定し、新システムの機能を理解し、システム操作を習熟する。	・新システムの、本稼動を開始し、安定稼動を確認後、ユーザー側とシステム側で新システム引渡しについて完了の合意する。	・ビジネスおよびシステム運用上の計画のもとに、業務運営およびシステム運用を円滑に遂行する。	・ビジネスおよびシステム運用上のパフォーマンス測定結果を評価し、計画とのギャップを分析する。	・評価結果に基づき、ビジネスおよびシステム運用の改善・向上に必要な変更点を明らかにし、目標設定する。	
システムアナリスト	業務の本質を理解し、新しい業務のあり方(ビジネスモデル)を定義する。ビジネス上の問題課題を解決することに責任を持つ。	新規ビジネスモデルを構想し、それを支援するIT戦略を立案する。	IT戦略上の優先順位を明確にし、新しいビジネスモデルを定義する。	新しいビジネスモデルを支援するシステムを立案する。	システム開発およびシステム運用側に対して、ビジネス上の運用要件を取りまとめ要求する。	システム側で作成した外部設計書を検証し、ユーザーに対して、その検証内容を保証する。	-	-	ユーザーに対して、外部仕様どおりにシステム開発されていることを検証し保証する。	ユーザーおよびシステム側に対して、実環境下で業務運営が遂行できることを検証し保証する。	ユーザーの試行状況を検証し、業務上の観点で移行ができることを確認する。	ユーザーおよびシステム側に対して、システム導入状況を確認し、業務上の移行が完了できたかどうかを確認する。	ビジネスおよびシステム運用上の計画を目標に、顧客に対してしなやかなサービスが提供されているか監視する。	ビジネスおよびシステム運用上の計画の達成度を検証し、計画とのズレを明確にする。	ビジネスおよびシステム運用上の計画が達成できるよう、効果のある改善策を策定する。	
ITアーキテクト	要件を明確にし、要件を満たすようなシステムの構造(アーキテクチャ)と、最適なインテグレーションの方法(開発方法論)を設計する。アナリストが定義したビジネスモデルを、ITによって具現化することに責任を持つ。	-	新しいビジネスモデルの中核となるシステム構造の枠組みを、ユーザー側に提案する。	実現可能なシステム構造を立案する。	開発エンジニアにシステム構造と開発方法論を指導する。また、ユーザー側に対して、設計したシステム構造を保証する。	-	開発エンジニアの実施内容の結果を検証し、ユーザー側に対してその実施内容を保証する。	-	-	-	-	-	-	-	-	
プロジェクトマネージャ	定義されたビジネスモデル、システムアーキテクチャ、開発方法論に基づき、実現可能なプロジェクト計画を立案し、開発作業を統括する。ビジネスモデルをITで具現化した情報システムを完成させることに責任を持つ。	-	-	プロジェクト計画を策定し、関係者全員と合意する。	プロジェクト計画書に基づき、プロジェクト実行の指揮およびプロジェクト作業の監視コントロールを実施し、プロジェクト目標を達成する。	-	-	-	-	-	-	プロジェクトを終結し、関係者に対してプロジェクト完了報告する。	-	-	-	
開発スペシャリスト	アーキテクトの設計に基づいて、情報システムを開発する。設計通りに、品質の高い情報システム(アプリケーションソフトウェアとIT基盤)を構築することに責任を持つ。	-	-	-	ビジネスおよびシステム運用上の要件を定義し文書化する。	要件定義に基づき、外部設計書として文書化する。	外部仕様に基づき、プログラムの詳細仕様を確定する。	個々のプログラムを製造し、その品質を保証する。	外部仕様どおりに動作することを検証し、システム全体の品質を保証する。	ユーザー側に対して、要件通りのシステムであることを保証する。	確実に本番切替ができる手順を作成し、その内容を保証する。	確実に移行・導入を実施し、本稼動を保証する。	本稼動後に発生している不具合や問題を解消する。	-	-	
運用スペシャリスト	運用設計、移行・導入計画に基づいて、運用保守を実施する。情報システムによる安定したサービスを提供することに責任を持つ。	-	-	-	-	システム運用手順を明確にし、設計したシステム運用について保証する。	運用手順の概要に基づき、日々・月次・年次のシステム運用方法をまとめる。	運用手順の概要通りにシステム運用できることを検証し保証する。	サービスサポート体制を準備し、ユーザー側と確認する。	サービスサポート体制を試し、稼動後の体制を保証する。	確立したサービスサポート体制によるシステム運用保守を開始する。	ユーザー側とシステム側で合意したサービスレベルを目標に、円滑なシステム運用とサポートを実現する。	ユーザー側とシステム側で合意したサービスレベルが実現できているか検証し、サービスレベルのズレを明確にする。	ユーザーに対して、サービスレベル改善のための提言をするとともに、サービスレベルが実現できるよう、効果のある改善策を策定する。		
ユーザー	要件定義、ユーザーテストに参画し、情報システムを利用する。開発する情報システムの妥当性を確認することに責任を持つ。	-	-	-	-	システム側で作成した外部設計書が、業務運営に合っているかどうかを検証する。	ユーザー教育およびユーザーテストが円滑に実施できるよう準備する。	-	実環境下で業務運営が遂行できることを検証する。	本稼動後の業務運営が円滑に実施できるよう、システム操作を習熟する。	安定稼動を確認し、新システム引渡しについて合意する。	業務運営上の計画を目標に、システムを活用し、顧客に対してしなやかなサービスを提供する。	業務運営上の計画が達成できているかを検証し、計画とのズレを明確にする。	業務運営上の目標が達成できるよう、効果のある改善策を策定する。		